

9/2 (月) 発掘初日 (晴天)

先週から雨天が続いていたため、作業場所周辺はぬかるみだらけ。

発掘参加者 櫻井和彦, 西村智弘, 下山正美 (穂別博物館)
小林快次, 田中公教, 飯島正也, 高崎竜司 (北海道大学)
安田弘文 (ササキ産業)

作業時間 7:30 ~ 17:00 (ササキ産業, 重機をつかった作業路整備)
13:30 ~ 15:30 (穂別博物館, 北海道大学)

作業内容 掘削のための作業路整備 (露頭・崖の中腹まで)

7:30 に櫻井と安田が現場へ。安田が重機 (バックホウ) で掘削地点とその周辺の作業路の整備を開始。

11:30 ごろに北海道大学から小林 (北海道大学総合博物館・准教授) と学生が穂別着。打ち合わせ後に、恐竜産地露頭の発掘調査へ出発。

現地での打ち合わせと、恐竜産地の地層の観察などを行う。重機による作業路整備の傍らで、作業路整備に伴って産した化石を採集する。幸運にも、幅 200mm ほどの骨化石入りノジュールを発見。この骨化石は恐竜とは別の海生爬虫類；ウミガメやモササウルスの骨である可能性も考えられるが、現在のところ正体不明。その他にアンモナイト (ネオフィロセラス? ディプロモセラス)、二枚貝などを採集した。



崖の中腹の整備中作業路



骨化石入りノジュール中央の黒いものが骨化石



作業路整備中。右の赤テープ付近が恐竜化石が産した地点